

会議記録表紙

会議名称	令和7年度北本市指定管理候補者選定委員会
開会及び 閉会日時	令和7年10月29日（水） 午後1時25分から午後4時43分まで
開催場所	北本市役所 会議室3-B
議長氏名	委員長：新井信弘
出席 委員等 氏 名	新井信弘、大保木道子、関根智、横田清、渡辺浩幸、坂口修、長嶋太一、福島弘行、吉田美佐男
欠席 委員等 氏 名	関根孝明
説明者の 職氏名	共生福祉課長：高橋弘 共生福祉課地域福祉・監査担当主幹：宮部亜由美 子育て支援課長：柳井志道 子育て支援課児童相談担当主幹：佐藤絵美 子育て支援課児童相談担当主任：畠野克也 生涯学習課長：赤塚浩二 生涯学習課生涯学習担当主幹：小野仙太郎 生涯学習課生涯学習担当主任：金子浩章 都市計画課長：橋本保 都市計画課公園担当主査：穴沢直也 都市計画課公園担当主任：長野司 総合福祉センター指定管理申請者：社会福祉法人北本市社会福祉協議会 児童館・こども図書館・地域子育て支援センター指定管理申請者：北本まちづくり共同事業体 中央緑地・下原緑地公園指定管理申請者：特定非営利活動法人北本雑木林の会 中央緑地・下原緑地公園指定管理申請者：株式会社矢口造園
事務局職員 の職氏名	総務課長：高橋良輔 総務課資産管理担当主査：福岡祐希 総務課資産管理担当主任：小松佑樹

会議記録表紙

会 議 次 第	1 開会
	2 議事
	(1) 審査、選定の方法について
	(2) 総合福祉センターの審査について
	(3) 児童館・こども図書館・地域子育て支援センターの審査について
	(4) 中央緑地・下原緑地公園の審査について
	3 その他
	4 閉会
	配布資料
	次第 北本市指定管理候補者選定委員会設置要綱 北本市指定管理候補者選定委員会名簿 スケジュール 指定管理候補者選定資料

会議記録

発言者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	1 開会
委員長	2 議事 議事(1)「審査、選定の方法について」事務局から説明を求める。
事務局	—審査、選定の方法について説明— 横田委員と吉田委員は北本市社会福祉協議会の理事も兼ねており、利害関係者にあたることから議事(2)総合福祉センターについては除斥となる。 なお、横田委員から所用により遅れて参加との連絡があった。議事(3)児童館・こども図書館・地域子育て支援センターの審査についてからの出席となる。
委員長	説明に対して、何か質問はあるか。
	—特になし—
委員長	それでは、事務局の説明どおりに選定する。
	—吉田委員 退出—
委員長	つづいて、議事(2)「総合福祉センターの審査について」を始める。
	—共生福祉課 入室—
委員長	所管課から、施設の概要等説明を求める。
	—共生福祉課より施設の概要等を説明—
委員長	以上の説明について、質問はあるか。
委員	今回の公募にあたって、競争原理が働くような広く募集するための取組は何かあるか。
共生福祉課	競争性を働かせるという点で、仕様書に2つの項目を追加

会議記録

発言者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>した。</p> <p>1つ目は、3ページの(6)にイの項目を追加した。ボランティアの育成については、団体によってノウハウの違いが大きく変わるものである。</p> <p>2つ目は、3ページの(7)のアについて、介護保険や障害福祉サービスを使用できない方の外出機会を生むことを目的とした、身体障がい者等への福祉用具の貸し出しを追加し、福祉用具は指定管理者が用意することとした。団体によって、福祉用具の調達力、ネットワークに差が出ると考えたためである。</p>
委員	仕様書に追加したようなことを実施している団体への働きかけ等は行ったのか。
共生福祉課	特段の働きかけ等は行っていない。
委員長	それでは、申請者からプレゼンテーションを求める。
	—申請者 入室—
委員長	申請者である社会福祉法人北本市社会福祉協議会より説明を求める。
	—申請者よりプレゼンテーション—
委員長	以上の説明について、質問はあるか。
委員	事業計画書の「管理に係る職員の人数・資格・配置等」の勤務形態について、職員人数で小数点以下の数字が記載されているのはどういうことか。
申請者	指定管理事業へ割く業務配分の割合である。事務局長については法人の全事業に対しての責任を負う立場であることから、指定管理業務で0.8人分、法人運営業務で0.2人分としている。また事務局次長については指定管理者業務0.6人分、法人運営業務で0.4人分としている。ボランティアコーディネーターについては3分の1を指定管理業務で3分の2

会議記録

発言者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	を他業務実施の契約としている。
委員	事業計画書の収支計画書の内訳で、正規職員1.4人分と嘱託職員1.67人分とはどのような配分となるのか。
申請者	正規職員については事務局長0.8人分と事務局次長0.6人分の合計、嘱託職員については事務職員1人分とボランティアコーディネーター0.67人分の合計となっている。
委員	組織図を見るとデイサービスグループは非常勤職員で多く占められているように見受けられるが、当該職員の平均勤続年数は何年程度なのか。
申請者	平均7、8年程度となっている。
委員	事業計画書6ページの生活介護事業にて「理学療法士または看護師によるリハビリ訓練を行う」とあるが、どのくらいの頻度で行われているのか。
申請者	週に2日、火曜日と木曜日に1時間程度希望者に対して行っている。
委員	事業計画書7ページのボランティア育成にて、「若い世代が参加しやすい活動を創出します」とあるが、具体的にどのような施策を考えているのか。
申請者	小学生から高校生に対しては夏休み中のボランティア体験への参加の呼びかけを行っている他、大学生に対しては福祉まつりやフードパントリーの手伝いの呼びかけも行っている。
委員	介護人材の確保が難しいとされる中で、どのように人材確保されているのか。
申請者	ハローワークやHPでの募集だけでなく、手数料は発生してしまうが、派遣や紹介での人材確保を行っている。

会議記録

発言者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員	経費等比較表を見ると令和6年度は赤字となっており、障害福祉サービス等事業収入を伸ばす必要があるように見受けられるが、利用者がどれくらい増えると計画が達成されるのか。
申請者	障害区分によって単価が変わってしまうが、生活介護で見ると、年間で約2,000人から2,100人程度利用していくと黒字が達成できる見込みである。
委員	現状利用者はどれくらいいるのか。
申請者	令和6年度は1,789人だった。
委員	計画達成に向けた人数差を埋める見込みはあるのか。
申請者	令和6年度は亡くなられた方や他サービスへ移行された方がいた影響で赤字が多くなったが、令和7年度には北本市へ転入した方や他サービスから生活介護へ移動した方などがあり、利用者が増えてきた状況である。
委員	令和6年度事業報告書において、婚活パーティーを開催している中で参加者が8名しかいないようだが、参加者人数を増やすような施策は考えているのか。
申請者	コロナ禍以前はある程度の人数がいたが、コロナ禍で人数が非常に少なくなった。埼玉県の結婚相談支援事業への登録者が増えていることから、当該事業ホームページへの開催情報の掲載を依頼することを考えている。 なお、男性からの申し込みは多いのだが、男女の人数を合わせる必要があることから、男性は抽選を行い、参加者を絞っている。
委員	5年間という長期の指定管理実施期間の中で、単年ではなく5年かけて実施する事業の構想等はあるのか。
申請者	生活介護をいかに推進するかという点に注力していきたいと考える。

会議記録

発言者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員長	5年経つと職員の入れ替え等もあり職員構成が変わると思うが、今後の職員体制についてどのように考えているのか。
申請者	定年を迎える職員が複数人おり、また30代の職員が少ない中で、財源の確保をしつつ若い世代の職員の採用も行いたい。また20代の育成も併せて進めていきたい。
委員長	以上で、プレゼンテーション及び質疑応答を終わりにする。 －共生福祉課・申請者 退室－
委員長	続いて採点を行う。採点表への記入をお願いしたい。 －事務局 集計作業－
委員長	採点結果について、事務局から結果報告をお願いする。 －事務局 結果報告－
事務局	【申請者①】 社会福祉法人北本市社会福祉協議会 505点
委員長	ただいま事務局から報告があったが、本委員会としては、社会福祉法人北本市社会福祉協議会を総合福祉センターの指定管理候補者としてよいか。 －委員一同、異議なし－
委員長	それでは社会福祉法人北本市社会福祉協議会を総合福祉センターの指定管理候補者とする。 －横田委員、吉田委員 入室－
委員長	つづいて、議事(3)「児童館・こども図書館・地域子育て支援センターの審査について」を始める。

会議記録

発言者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	—子育て支援課・生涯学習課 入室—
委員長	所管課から、施設の概要等説明を求める。
	—子育て支援課・生涯学習課より施設の概要等を説明—
委員長	以上の説明について、質問はあるか。
	—質問なし—
委員長	それでは、申請者からプレゼンテーションを求める。
	—申請者 入室—
委員長	申請者である北本まちづくり共同事業体より説明を求める。
	—申請者よりプレゼンテーション—
委員長	以上の説明について、質問はあるか。
委員	こども図書館の事業計画書8ページについて、GIGAスクール構想を進めている学校とどういった連携を行っているのか。
申請者	今後より深く学校との連携を進めたいと考えており、生徒へ配布されているタブレット端末に電子図書館の設定を行う。現在は貸出中の本を読むためには返却されるまで予約等して待たないといけないが、電子図書館では同じ電子書籍を何人も同時に読めるようにする機能を導入し、学校での朝読書等に活用し、生徒に読書習慣を高めてもらうよう取り組みたい。
委員	これは学校側が導入するかの判断を行うものなのか。
申請者	学校だけでなく市民も同時に活用できることから導入はする予定であるが、学校へはこの施策を説明した上で、学校側

会議記録

発言者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	にて活用方法を判断してもらおうと考えている。吉川市でも同様の施策を進めていて、1か月で全国8位の閲覧数実績があったことから、子ども達も端末を用いた読書要望があると考え、北本市でも本施策を進めていきたい。
委員	経費について、令和8年度以降人件費が上昇していること、また事業費が減少していることの理由は何か。
申請者	<p>人件費の上昇の理由が、人件費上昇に対応できるようにしたこと、また実際に前指定管理者から引き継いだ職員数が当初の想定より多かったことが赤字の原因となっている中で、現在の職員はこの指定管理期間5年間での成長もあり、継続雇用したいと考えていて、昇給分を見込んでいる。</p> <p>事業費の減少の理由については、前回までは事業費に含めていた項目を管理費に含めたことによるものである。</p>
委員	子育て支援センターについて、相談機能の強化とある中で、人員配置の中で知識経験者とあるがどのような人材を想定しているのか。
申請者	子育て経験者であることが前提として、子育て支援員の資格を取らせるようにしております、簡易的な相談は施設内で解決できるようにしている。
委員	児童館の事業のファミリー・サポート・センターについて、利用希望者が多くいると想定される一方、支援者の確保に苦労すると考えられるが、今後の取組等を教えてほしい。
申請者	市内公共施設にてファミリー・サポート・センター会員募集ポスターの掲示を行っており、これを継続していくことに併せて、今度導入するシステムで会員募集を行い、ファミリー・サポート・センターを活性化させていきたい。
委員	みらいカレッジ講座の受講者を1.5倍に伸ばすとあり、ハードルが高いように見受けられるが、適切な目標設定なのか、またその具体的な施策はどのようなものか。

会議記録

発言者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
申請者	現在もグリコや消防署等様々な団体と連携して実施しているが、他にも連携したいという団体が多い中で、他の支援事業との兼ね合いの中で実施回数を抑えている状況である。このことから事業を精査した上で、講座実施回数を伸ばすことは十分可能だと考える。
委員	こども図書館における SNS 発信強化で動画配信とあるが、動画編集等は誰が行うのか。
申請者	図書館業務がどのようなことをしているのか見えにくいと考えているため、このことを発信し司書に興味を持ってもらいたいとの想いがあつて提案したのだが、現状どのように進めていくかはまだ検討段階である。社内にそういう専門チームもあるので、連携しながら徐々に進めていきたい。
委員	貸出図書返却スポットについて、セブンイレブンとの提携とあるが、調整はできているのか。
申請者	図書館流通センターとセブンイレブンでの契約は実施済であり、セブンイレブン店舗側の了承があれば実施可能である。ただし今回の指定管理料には本施策の費用を含んでいなかったため、予算が付けば実施可能であるということはご了承いただきたい。
委員	職員の継続雇用や地元雇用の推進とあるが、定着率や現在の地元雇用率はどれくらいなのか。
申請者	定着率については、当初雇用した方はほぼ残っており、一部の退職された方も基本的には家庭の事情が理由である。 また地元雇用率については、50%は超えている状況である。
委員	数字目標を各種掲げられているが、目標を掲げすぎると本当にやってほしいことが必ずしも達成できないで終わるのではないかと危惧していることを意見として述べさせていただきたい。 また、児童館の事業計画書 p31 の中高生の居場所作りにつ

会議記録

発言者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	いて、部活動や習い事等の組織に属さない生徒達に向けてでないと難しい施策ではないかと感じており、理想論ばかりではなく緩く育っていけるような環境作りが必要と考えているが、このことについてどのように考えているのか。
申請者	中高生の居場所づくりについては、中学校に入学した子ども達の中に、中学校には通えないが児童館には行けるという子も複数いる中で、このような子が他の人と触れ合う機会を設け、社会性を育む観点から情操教育を実施することを目的としたものである。
委員長	以上で、プレゼンテーション及び質疑応答を終わりにする。 —子育て支援課・生涯学習課・申請者退室—
委員長	続いて採点を行う。採点表への記入をお願いしたい。 —事務局 集計作業—
委員長	採点結果について、事務局から結果報告をお願いする。 —事務局 結果報告—
事務局	【申請者①】 北本まちづくり共同事業体 697点
委員長	ただいま事務局から報告があったが、本委員会としては、北本まちづくり共同事業体を児童館・こども図書館・地域子育て支援センターの指定管理候補者としてよいか。 —委員一同、異議なし—
委員長	それでは北本まちづくり共同事業体を児童館・こども図書館・地域子育て支援センターの指定管理候補者とする。
委員長	つづいて、議事(4)「中央緑地・下原緑地公園の審査について」を始める。

会議記録

発言者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	—都市計画課 入室—
委員長	所管課から、施設の概要等説明を求める。
	—都市計画課より施設の概要等を説明—
委員長	以上の説明について、質問はあるか。
委員	北本雜木林の会と株式会社矢口造園で指定管理料に倍程度の差があるが、指定管理料は市側で上限は設けていないのか。
都市計画課	上限は定めていない。
委員長	提案内容を基に積算した指定管理料となるので、指定管理料が提案内容に対して適切であるかも含めた総合的な評価をしていただきたい。
委員	評価委員会で株式会社矢口造園が指定管理者となっている都市公園についての評価を行った。収支は赤字とのことだが、臨時で実施した業務は株式会社矢口造園へ支払っていたことだが、それだと株式会社矢口造園との1者随意契約と一緒にになってしまうのではないか。
都市計画課	経費の見直し等を改めて実施していきたい。
委員長	それでは、最初申請者からプレゼンテーションを求める。
	—申請者入室—
委員長	申請者である特定非営利法人北本雜木林の会より説明を求める。
	—申請者よりプレゼンテーション—
委員長	以上の説明について、質問はあるか。

会議記録

発言者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
委員	樹木の成長により剪定等が大変になってきていると思われる中で、大きな支出増もなく実施していく計画の見通しを教えてほしい。
申請者	<p>支出としては非常に厳しい状況であるが、1,000万円を超えると消費税に係る事務処理が発生するが、各会員が自分の仕事があったり、ボランティアで実施してくれていたりという状況の中で、事務処理専任者を設けることは現状難しく、1,000万円を超える支出の事業計画とすべきかは、今後の検討課題としている。</p> <p>現状では、補助金活用や本当に実施すべき事項を見極めながら運営していこうと考えている。</p>
委員	事業計画書の中で車いすの方が利用しやすいように入口を改善するとあるが、具体的にどの場所を改善するかを考えられているのか。
申請者	線路に沿った東地区が細長く、入口が4箇所あり、各入口が鉄の棒で遮られている状況であることから、ここを改善していきたい。
委員	組織体制が現在正会員36名、賛助会員が26名となっているが、この数年の会員数の増減はどのような状況か。
申請者	今年度になって正会員が新たに5名入会しており、増えている状況にある。
委員	台風等の自然災害による倒木や枝折れ等に対して、即時対応できる組織体制が取れているのか。
申請者	天候が荒れたあとは、理事10名にて各担当地区を決めて見回りを行っている。
委員	希少種を市民に広く知ってもらうことで雑木林の価値が上がる一方で保護が難しくなると思うが、どうバランスを取つて周知を図ろうと考えているのか。

会議記録

発言者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
申請者	樹木の盗難等も危惧され非常に難しい部分であるが、広く知ってもらうことは雑木林の価値の向上に繋がること、また盗難等は周知の有無関係なく発生するリスクがあることから、引き続き周知活動を進めたい。
委員	今年は特に草の伸びる速度が速く、線路際は特に草が伸びている状況だった。この状況から草刈りの手が回らない状況なのではと危惧したのだが、どのような現状なのか。
申請者	線路際は去年大規模な高木伐採を行った結果、日照時間が増え、今まで以上の速度で草が伸びてしまった。このことから草刈り回数を増やしたが、それでも想定以上に伸びてしまい対応が追いつかなくなってしまった。今後も各地状況を確認しながら適切に対応したい。
委員長	以上で、プレゼンテーション及び質疑応答を終わりにする。
	—都市計画課・申請者退室—
委員長	続いて採点を行う。採点表への記入をお願いしたい。 それでは、次の申請者からプレゼンテーションを求める。
	—都市計画課・申請者入室—
委員長	申請者である株式会社矢口造園より説明を求める。
	—申請者よりプレゼンテーション—
委員長	以上の説明について、質問はあるか。
委員	雑木林を守っていこうという子供の心の育成についてはどのように考えているのか。
申請者	子供の心を育む場所は学校だけでなく、周辺地域であり緑地であると考える中で、緑地内で好きな遊びを自由に行うプ

会議記録

発言者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	レーパークを実施している団体と連携をし、子供の心の健全な育成への寄与のためにこのプレーパークの実施を計画中である。
委員	子ども達の草刈りボランティアの実施は検討しているのか。
申請者	現在計画していないが、実施可能である。都市公園における中学生の職場体験にて草刈り実施実績があることから、実施ノウハウは備わっている。
委員	事業計画書 19 ページにて「特殊な技術を要する「法定点検」や「保守点検」等は外部事業者にて対応します。」とあるが、何を想定しているのか。また収支計画書のどの項目に反映されているのか。
申請者	浄化槽点検や高圧電気点検、現状はないが遊具点検等を想定している。 項目については管理費に反映されている。外部委託費の項目を設けてもよかったですのだが、あまり金額が大きくないことからこのようにしている。
委員	事業計画書 19 ページにて経費縮減例が記載されているが、本指定管理業務では何を想定しているのか。
申請者	造園関連の自社施工部分を想定しており、例えば、蜂駆除はノウハウを持っていることから経費をかけずに早急に対応可能である。その他にも高木・中木・低木剪定や危険木処理等も挙げられる。
委員	雇用について、社員の定着率や育成についてどのような施策を取られているのか。
申請者	福利厚生にてインフルエンザ予防接種やアナフィキラシー抗体検査等は全額会社負担としている他、熱中症対策にてスポーツドリンクや空調ファンの確保など、安心して働ける環境作りを行っている。また相談や悩み等を受けるにあたって

会議記録

発言者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>の専門的知識を保有し、体制を整えている。</p> <p>また、社員育成については、例えば草刈りであれば講習を受けさせた上で業務に従事させるなどの法定に基づいた講習を受けさせている。</p> <p>実績として、多様的な働き方実践企業であるプラチナ企業の認定を平成28年1月から受けていること、また埼玉県より荻野吟子賞いきいき職場部門を令和3年度に表彰されており、職場環境については一定の評価を頂いていると考える。</p>
委員	<p>現在の指定管理者である北本雑木林の会に代わって自分達が実施可能であることを、実施に当たって発生する費用も踏まえて、どう捉えているのか。</p>
申請者	<p>安心・安全についてはPRできると考えている一方で、雑木林と今まで関わってきた経験や関係性は北本雑木林の会が上ではないかと考える。</p> <p>なお、今回の募集にあたり、北本雑木林の会に対して共同で実施しないかという提案を行ったが、実らなかつた。もし当社が指定管理者となった場合、再度提案を行いたいと考えている。</p>
委員	<p>雑木林の管理は手を加えないというイメージがあるが、矢口造園の考え方は手を加えてより良いものにすると捉えているが、この部分をもう少し詳しく教えてほしい。</p>
申請者	<p>緑の在り方として、管理された緑と大自然の中の緑とに整理される中で、本緑地は都市部の管理された緑が求められていると考えており、樹高をあまり高くしないなど、自然に見えるようにしながらも手を加える雑木林の管理を目指していきたいと考える。</p>
委員	<p>公園としての魅力や価値を高めていくのにどのような施策を考えているのか。</p>
申請者	<p>例えば、夏場に草が生い茂り夜に公園内を歩くのは怖いと感じる状況は公園の在り方として相応しくないのでないか。本緑地は、都市公園として安心・安全・快適に過ごせる</p>

会議記録

発言者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	かつ通り抜けしやすいと感じてもらえるように管理をしていく必要があると考える。
委員長	以上で、プレゼンテーション及び質疑応答を終わりにする。 —都市計画課・申請者退室—
委員長	続いて採点を行う。採点表への記入をお願いしたい。 —事務局 集計作業—
委員長	採点結果について、事務局から結果報告をお願いする。 —事務局 結果報告—
事務局	【申請者①】 特定非営利法人北本雑木林の会 669点 【申請者②】 株式会社矢口造園 664点
委員長	ただいま事務局から報告があったが、何か意見等はあるか。
委員	今回、特定非営利活動法人と株式会社と組織形態が異なる中で、指定管理者選定において金額はどう考慮すればいいのか。
委員長	今回は意見として承って、事務局には価格も評価項目に入れる等今後の選定における課題として検討してほしい。 今回は僅差ではあったが採点結果に差が付いたことから、本委員会としては、特定非営利法人北本雑木林の会を中央緑地・下原緑地公園の指定管理候補者としてよいか。 —委員一同、異議なし—
委員長	それでは特定非営利法人北本雑木林の会を中央緑地・下原緑地公園の指定管理候補者とする。

会議記録

発言者	発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
事務局	<p>3 その他</p> <p>本日決定いただいた事項は、本委員会終了後、市長に報告し、所管課及び指定管理候補者にも通知する。</p> <p>次回は11月10日（月）に障害福祉サービス事業所北本市立ふれあいの家を予定している。</p>
事務局	<p>4 閉会</p> <p>以上をもって終了する。お疲れ様でした。</p>

以上